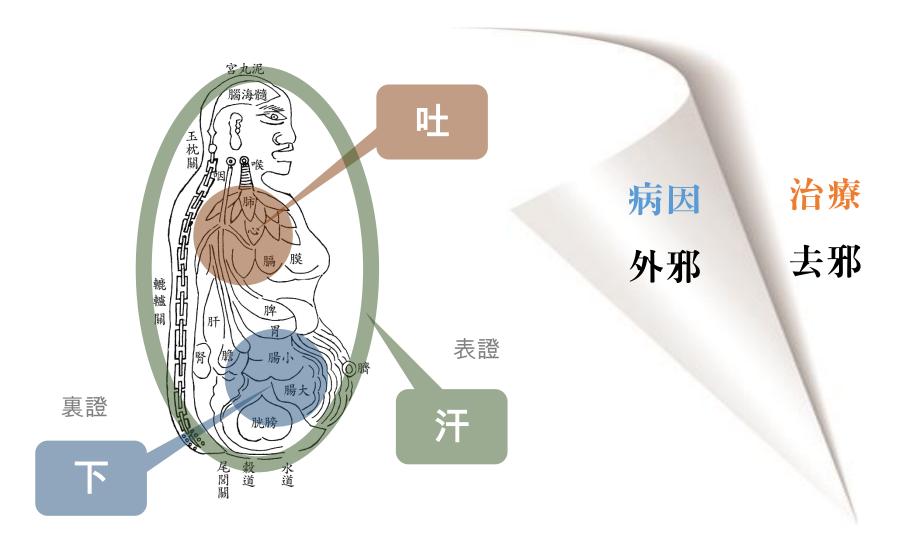
태양병(太陽病) 개요

오준호

인간과 질병



備急千金要方卷第九傷寒上>傷寒例第一1

華佗曰,

夫傷寒始得,一日在皮,當摩膏火灸之即愈.

若不解者,二日在膚,可依法針,服解肌散發汗,汗出即愈.

若不解,至三日在肌,復一發汗即愈,若不解者,止勿復發汗也.

至四日在智,宜服藜蘆丸,微吐之則愈.

若病困藜蘆丸不能吐者, 服小豆瓜蒂散, 吐之則愈也. 視病尚未醒醒者, 復一法針之.

五日在腹.

六日入胃. 入胃乃可下也.

<u>若熱毒在外.未入於胃.而先下之者.其熱乘虛入胃.即爛胃也.然熱入胃要須下去之.不可留於胃中也.</u>

備急千金要方卷第九傷寒上>傷寒例第一1

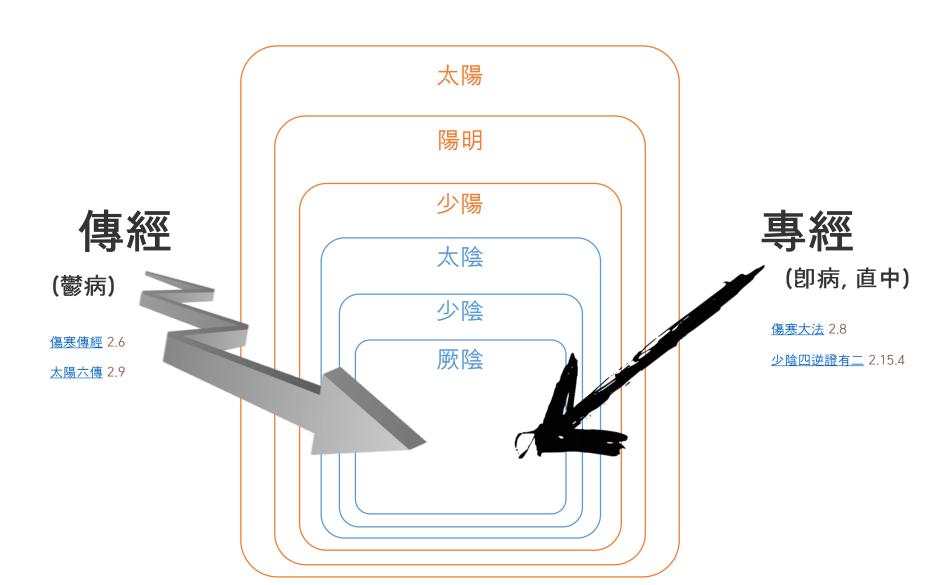
王叔和曰 … … 夫傷寒病者, 起自風寒入於腠理與精氣分爭, 榮衛否膈, 周行不通.

病一日至二日氣在孔竅皮膚之間,故病者頭痛惡寒腰背強重,此邪氣在表,發汗則愈.

三日以上氣浮在上部, 填塞胷心, 故頭痛胷中滿, 當吐之則愈.

五日以上氣沈結在藏,故腹脹身重,骨節煩疼,當下之則愈.

六經



太陽病

